

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105714		
法人名	医療法人おおぞら会		
事業所名	グループホームおおぞら(1階)		
所在地	岡山県岡山市北区大安寺南町一丁目11-28		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 17 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigvosvoCd=3370105714-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山県岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 2 年 10 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年令和2年は、私たちグループホームおおぞらにとって、そして全世界的にも忘れられない年となりました。新型コロナウイルスの全世界的な流行で、ご利用者様・ご家族様に大きな不便をかけ、そして理不尽でお寂しい思いをさせてしまうこととなりました。平成15年に開設したグループホームですので、最新の設備はありませんが、定着率の良い職員と開設時から暮らす家族犬2匹がいるのが特徴です。新型コロナウイルスは、そんな私たちグループホームのアットホームな良さに影を落としました。しかし、病院母体の良さを生かして出来る限りの感染対策を施し、職員には多くの我慢をしてもらっていますが、皆で協力し合い、この危機を乗り越えるべく励んでおります。運営推進会議を通して、ようやく地域の皆様方との繋がりが生まれていた時にコロナ禍に見舞われましたが、書面会議にてやり取りを進めていく中で、深い絆が生まれつつあります。大安寺南町という、とても住みよい環境の中で、私たちグループホームおおぞらは、皆様とともに生活しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(外部評価機関記入)】

管理者の日頃の思いが周りにいる人々に浸透しており、スタッフの挨拶や姿勢も爽やかで謙虚な姿が目についた。わからない部分や出来ていない部分を長年ずっと運営推進会議に参加しているメンバーから、「こうしては良いのでは?」と、数多くの鋭い指摘や提案を職員一丸となって、どうしたらそれが叶うかと個々に自問自答しながら日々活かしていく姿勢が漂っていた。まるで、雲いっぱい空に少しずつ光が射し、青空が雲の隙間から顔をちょっと覗かし、徐々に大空に広がっている如く、困難なことも地域の方と共に利用者に恩返しをしながら、指摘を受けたことだけに集中して、改善していこうとする管理者のところが、職員に溶け込んでいる所が優れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念ではないと思うので、今後は見直しを考えています。現在の理念は「安全・安心なホーム」というこれ以上はない簡単なものですが、一番大切なことではあります。拠って理念としての共有・実践を行っています。	習字が得意な職員が手書きした理念が、各ユニットのリビングに貼ってある。新人職員には、ホーム長が現場で直接説明をし、少しでも早く馴染むようにシンプルな経営理念ではあるが、伝えている。職員一人ひとりが利用者に接する姿から「安全・安心なホーム」の理念が、浸透している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域の多くの方々を知ることが出来ました。演奏会などボランティアで行ってくださっています。また朝のホーム周りの清掃で、地域の方々との挨拶、会話などがえのない時間です。	利用者の家族や友人が近隣に住んでいることもあり、施設の庭の手入れをしてくれる。また、会議を通して地域との付き合いが広がったので、施設主催でリハビリ研修会を開催した時には、30名程の方々が集まった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、リハビリ研修会を開催し、多くの地域の方々におおぞらでの日常を、一部ですが知っていただけました。アフターコロナでも研修会を開催予定です。研修会で認知症の方々の日常とその支援について多くの質問がありまして、次回は内容を更に深化させたく思っております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍となり、現在は書面にて会議を開催しております。実際の会議でも有効なご意見は多くいただきましたが、書面では更に多くの厳しく温かいご意見をいただいております。特にインシデントの報告に関しては、多くのご意見をいただいております。実際のケアの場でしっかりと生かさせていただいております。	老人クラブの会長、前民生委員、家族の代表、事業者指導課、地域包括、他施設の管理者が参加している。議事録は玄関横にファイリングして置かれており、職員全体で情報共有することができる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に事業者指導課施設係のご担当の方ご参加いただいております。そして数多くの温かいご提案、励ましをくださっております。しっかりとおおぞらの現状をご理解いただいております。また生活保護のご利用者様も多くご利用されておられますので、福祉事務所の方との連携も密にとっております。	事業所指導課からアドバイスをいただくことが多く、何でも話せる関係が出来ている。会議の際に、有益な情報を交換することが多いが、書面やFAXでのやり取りもある。情報を活かした結果、外部に向けての研修会を開催し、地域との交流が増えた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化の指針に基づいて、委員会の開催、研修を適正に行っております。拠って、禁止の対象となる具体的な行為に関しては、職員皆で周知致しております。又定期的な委員会で適切なケアが行われるように話し合いをし、周知し、実際に生かしております。住宅街ですが、車の往来が多く、用水路も多くあるため、玄関の施錠についてはご家族様にご理解いただいております。	玄関に資料を掲示しており、常に見直せるようにしている。身体拘束はしない。防犯の関係上、必要最低限の施錠はしているが、利用者・ご家族の同意を得ている。利用者への言葉掛けには十分配慮しており、特にスピーチロックには気を付けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を作り、研修、委員会の開催に拠り全職員に周知徹底しております。平生より朝の申し送りやサービス提供者会議を利用して、ご利用者様のケアが適切に行われるようにしっかりと話し合いを行っています。また管理者は平生より職員と会話の機会を多く持ち、悩みや相談を聞いております。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一年の研修計画に必ず組み込み、研修を行っています。成年後見制度については、実際に後見人の方がついておられるご利用者様もおられるので、職員に説明を行っています。ご契約の際、また随時にご家族様に成年後見制度についての説明を行ってありますが、まだ活用まで繋がっていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用前から、ご家族様・ご利用者様には、しっかりと事前面談の時間をとり、その時からご不明な点について説明しております。契約時には更に時間をしっかりかけて、説明させていただいております。解約はほぼありませんが法律改定時には、書面にての説明も行い、必ず納得していただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設けて、ご自由なご意見をお寄せいただき易くしております。また平生よりご利用者様に何かありましたら、すぐに連絡して説明させていただくようにしております。現在は困難ですが、ご家族様のご来訪時にもしっかりとお話ししております。又ご利用者様のご意見も傾聴しご要望にお答えできるように記録に残し、出来るだけ実践させていただいております。	コロナを避けるため、リビングのガラス越しから面会を行っている。家族からのメールやラインでのやりとりも増えた。お便りを郵送する際には、お手紙や写真を添えている。利用者や家族の気持ちを一番に考え、傾聴の精神を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	平生の雑談に始まり、朝の申し送り時間から会議まで、職員の意見や提案はしっかりと行っていただくようにしています。普段から意見を出しやすい環境になりように意識的に努力しています。職員からの意見は、母体の執行会議等で代表者に伝え、改善等に繋がっております。	ホーム長には、何でも言える関係が築かれており、休憩時間や食事の雑談時に色々な意見が出やすい。また、ベテラン職員から貴重な意見をいただけることもある。出た意見は情報交換ノートに記録し、職員間で共有できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	おおよその運営に関しては、管理者がしっかりと状況について随時母体へ報告しており、職員個人の適正な評価に繋がっております。職場の環境整備がなされており、個々人の人間関係にも配慮されております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その時の研修に関しては、前年に研修予定表を作成し、毎月実行しております。職員が研修講師になってレジュメ作りから講義、まとめまで行っています。外部研修については、研修申し込み書を母体に提出し受講しております。働きながらのトレーニングということですが、試行錯誤しながら皆で行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流に関しては、母体も推進しており、現在は運営推進会議を通して他のグループホームさんと交流をさせていただいております。また外部研修の際に同業者交流をしたり、人脈作りに励んでいます。その交流によって刺激があって新しい気づきや新しいケアに繋がっていくように皆で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様ご本人には、サービス導入前にはほとんど詳細な話ができないので、導入段階でしっかりと、出来る限りの聞き取りを行います。ご自身の思いを言える方は少ないので、こちらが身体的状況や思いを押し量って、安心していただけるように寄り添います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みをいただいた段階から、詳細に現状のお話を伺います。ご入居が決定したら、ご利用者様とご家族様のご意向を詳細に伺って、アセスメントを行います。ご家族様のいお気持ちに出来るだけ寄り添い、少しでも安心してご利用していただけるように、話やすい環境作りを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談をいただいた時点で、ご希望に沿えない事の方が多いため(満床であることが多いので)、わかる範囲で他のサービスのお話もさせていただいております。どこに相談したらいいのかわからないという方も多くおられたので、地域包括支援センターさんをご紹介します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは家庭的な場なので、本当に家族のような馴染みの関係になります。遠慮がなくなり過ぎないように、また生活の主体者として尊重すべき存在として捉えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームにご入居されたからと言っても、ご家族様との関係性はとても大切ですし、結局皆様本当は帰りたいわけですので、ご家族様とは一緒にご利用者様をケアしていると思っています。終の棲家とはけっして言えないと思います。ご家族様が、そのご利用者様の家です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に入ることで喪失するものは多いと言われていますが、それは悲しいことだと思います。可能な限りお友達にも遊びに来ていただいていますし、美容院も同じところに行っていただいています。アフターコロナにはまたそのように致します。	コロナ前はバラ園や近所の公園へ桜を見に行った。現在は、母体の病院に連れて行くことが多いので新たな馴染みの場所になっている。近所の美容院や理髪店には継続して連れていくことで馴染みの場所が途切えないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	やはり気の合う人、合わない人はいますので、気持ち良く生活していただけるように、お席を考えています。お一人がお好きな方もいますので、無理強いないようにしています。体操を日課としていますので皆様全員参加していただいています。行事の際も出来るだけ全員参加していただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いったんご退居されると、なかなか関係性を持っていくのは困難ですが、ご利用者様のご家族様で長い間ご自宅で作ったお野菜を届けてくださる方がいます。またかつてご利用されていたご縁で、今度はご親戚の方がご入居されたこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様から出来るだけ詳細に聞き取りを行います。ご自身の思いを的確に語れる方は少ないです。やはりご本人様の状況を鑑みて、当方で推し量らせていただくことが多いです。ご本人様に不利益にならないように致します。	日常生活の中で思いを聞くことがほとんどだが、困難な場合は、言動や表情から把握したり、家族から聞き取ったりしている。職員は、利用者のためになるように「したいことをやろう!!」の精神を大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様から聞き取りが出来ない場合は、ご家族様もしくはお分かりになれる方から詳細に聞き取りをさせていただきます。馴染みの暮らし方については今後のホームでの暮らし方のヒントにさせていただいております。サービス利用についても今後のケアをどのように受け入れてくださるかに関わってきますので、大切だと思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症がとても重度な方であっても、極めてユニークな発言があったり、毎日新鮮な驚きに満ちています。又現在の状況の維持、そして低下の防止のためにしっかりと状況把握につとめています。漫然と過ごされることがないように工夫と努力をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サーボス提供者会議を開催し、出来るだけ多職種の方に集まっていたきたいのですが、出席できない方からはご意見をいただいております。短期目標は達成できるものを、具体性のあるものを掲げています。	介護計画は、入居時、1か月、3か月、何かあればその都度見直している。日常の業務がモニタリングとなっている。申し送りノートやケアプランファイルを活用し、職員間で共有している。また、医師からも往診時に療養上の指示・アドバイスをもらっているため、モニタリングに役立っている。	介護が単独の計画となっているようなので、医師を交えてその人全体からの意見を閲覧し、指示を仰いでいただければいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は、特に認知症の症状に関わることや特徴的なことをしっかりと記載するようにしてもらっています。また申し送りノートに職員の気づきを必ず記載してもらい、皆で話し合い、考えています。どんな小さなことでも貴重な意見なので、尊重しております。そしてケアの実践やモニタリングに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の多様性と、年々変化していかれる状況に対応しなければならぬので、グループホームのサービスは変わっていかねばならないのでしょうか。今後の在り方を考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様のいままでの生活は数多くの人たちと多くの社会資源によって成り立ってきました。おおよそにご入居されて後も今までと、そしてこれからの社会資源を出来るだけ活用出来るようにと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様のご希望される医療が受けられるように支援しています。診療科によって、今までかかっておられたドクターの診察を受けることが必要な場合は、おおよその職員がご利用者様をお連れしております。	母体の病院がかかりつけ医なので、24時間365日体制で適切な医療を受けることができる。看護師と主治医の連携が取れているので、情報伝達がスムーズに行える。ドクターは一人ひとりにあった医療についての話をしてくれるので、介護に役立つようにしている。	医療に関しては、ドクターのご指示なので忠実に介護に活かすためにも、深く関係性を持ち、時には話し合う場を設けてはいかがでしょうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤勤務しているため、他の職員はケアの中での医療的な相談をやりやすい環境にあります。感染対策も看護師を中心に行っております。母体の病院の訪問看護師は、医療処置に訪問しますので、ご利用者さまの状況を説明し、適切なアドバイスももらっています。介護職はすぐに看護師に相談出来るのでご利用者様・ご家族様には安心していただけます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	母体が病院であることで、ご利用者さま・ご家族様には安心していただけています。ご入院は全くないことではないので、その場合は病院関係者との連携はしっかりとれるように心掛けています。退院時には、病院の退院支援ナースとの話し合い・情報提供を密にいただけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の契約の際に、ご家族様・ご利用者様にしっかりと説明しています。起こりうることをご理解していただいた上で、ご入居していただいています。重度化した場合の指針と、看取り介護の指針を読みながら説明して、おおよそで出来ることをわかっていたいただいています。実際にそのようになった場合は、ご意向に沿ってチームでケアにあたっています。	入居時にできることとできないことを明確に説明している。看取りについては、ドクターと連携し、今後どうするかを本人、家族に相談して決めてもらっている。看取りを経験している職員が多くいるので、安心して任せることができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を実施して、急変時や事故発生時の対応を全職員で対応出来るようにしています。特に急変時の連絡体制は万全なものにしています。応急手当に関しては、実践の場で使えるように、更にしっかりと訓練が必要かと思っておりますので、しっかりと行います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍にて、地域の方々との水害避難訓練を実施出来ていません。しかし運営推進会議等を利用して有事の際には援助をお願いしております。おおよそでも有事には地域の皆様の避難場所となったり、なんらかの助けができれば良いのですが。職員はご利用者様と年二回の風水害・火災時避難訓練を行っています。西日本集中豪雨の際には、実際に垂直避難を行いました。	4月に夜間想定で水害訓練、10月に昼間想定で火災訓練を実施した。リビングの壁面に防災マップや避難経路が貼っており、防災に対する意識は高い。備蓄は施設2階に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者さまは、今までの長い月日をそれぞれの生き方で、精いっぱい生きてこられた方ばかりです。皆様の人生を尊重して、けっしてぞんざいな物言いは致しません。ご利用者様を自分の身内のように思いケアを行っています。	敬称は基本名字で呼んでいるが、その人の馴染みにあった呼び方をする場合もある。排泄失敗時は、相手の気持ちに配慮して「気にしないでいいですよ」と耳元で優しい言葉掛けをしている。夜間の部屋に入る際は、必ずノックするように心がけ、利用者を尊重する気持ちを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身の思いを表出できる方は、そんなに多くはないのですが、そのような場合は推し量って対応しています。現在はコロナ禍にて、外出もできない状況ですが、出来るだけ楽しく過ごしていただけるように食べたいものもリクエストにお応えしたり、一緒にたこ焼きを焼いたりしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれの生活パターンがあるので、その方の自由に過ごしていただいています。受診・往診や体操は必ずですが、生活の場ですので、集団で同じことを強いることはないよにしています。今はできませんが、外出や散歩も個別に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までは訪問美容師の方をお願いしていたのですが、コロナ禍にて、現在はご家族様・ご本人様の許可を得て職員がヘアカットを行っています。どうしても髪を伸ばしたいご利用者さまがおられて、髪を後ろで束ねておられます。可愛いシユシュで結んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在のご利用者様の状況では、なかなか一緒に片付けをするのは難しいかもしれません。朝食後のお膳拭きをお手伝いしていただいています。また食事ですが、全介助の方が数名おられまして、なかなか一緒にには出来ない状況です。	施設の意向で、家庭的で温かい食事を提供することを大切にしているので、3食全てが手作り。庭で栽培している旬の野菜を使用することもあり、残食はほとんどなく、利用者に喜んでいただいている。食事の後片付けを手伝ってくれる利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれのご利用者様の疾患・体重を考慮して、必要な水分量を考え、飲んでいただいております。嚥下状態に合わせてとろみをつけて、誤嚥されないように提供しています。食事は栄養と嗜好、食べる状態を考えて形状に工夫しています。少食の方には栄養補助食品や高カロリー飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っています。自力で出来る方、声掛けて行う方、全介助の方とおられますが、誤嚥性肺炎防止に食物残渣がをしっかりと排出していただいております。とても口腔ケアが難しい方がおられますので、歯科のドクターにアドバイスをいただこうと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮して、それぞれのご利用者様がトイレに行かれる時には、付き添ってお手伝いをさせていただきます。排泄チェック表にて、それぞれの排泄パターンを把握し、便秘を解消しております。安易におしめを使用しないようにして、誘導やその声掛けに工夫しています。	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを理解していて、些細な兆候も見逃さないように支援している。耳が遠い利用者には筆談したり、「お小用に行きませんか」と言葉掛けしたりするとトイレに行く利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便はマイナス2日になると、各ご利用者様毎に何らかの手立てをこころようしております。洗腸でなければいけないご利用者様もおられますし、冷たい牛乳を飲むと出る方もおられます。便秘の弊害は職員は理解しておりますので、水分をしっかりと取っていただくこと、体操や出来る方はしっかり歩行をしていただくことで自然な排便を目指しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大規模施設ではありませんが、好きな時間、好きな曜日に入浴というのは難しいです。申し訳ないのですが、極力ご希望を叶えたいと思いながら、週に二回を最低回数としてご入浴していただいております。一人の職員が付き添うようにしています。	入浴は週2回で、お風呂が好きな利用者が多い。浴槽に入らない利用者はシャワーのみの場合もある。入浴中は必ず介助を行っている。お湯は自動式で循環湯となっている。利用者が喜んでくれるので、地方の温泉地の入浴剤を使用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	現在はコロナ禍にて、昼食後にお昼寝の時間とさせていただきます。その間に職員はフロアの清掃・消毒作業を行っております。また就寝時間は各ご利用者様に合わせてばらすし、季節に応じて快眠出来るように、それぞれのご利用者様に合わせた寝具を用意しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれのご利用者さまが何の薬を服用されているか、各職員が把握するようにしています。例えば薬が変わった時は、それによって起きる症状などを介護記録に詳細に残し、看護師に報告、ドクターへ往診時に報告します。配薬間違いがないように、しっかりとチェックを行っています。薬の研修を、病院の薬剤師の先生にお願いしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様のお好きなことや好きな歌手などを、ともに生活していく中で知り、一緒にDVDを観たり、テレビを観たり話し合ったりしています。ぬいぐるみを子供のように可愛がっている方もおられるし、新聞や雑誌を読んでいる方もおられます。現在は外出は出来ませんが、出来るだけ楽しく過ごせるように、雰囲気作りも工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍にて、外出も散歩も出来ません。しかし、それぞれのご利用者様のご希望を叶えようと、ラーメン屋さんに出掛けたりしていました。今後は岡山市中心部に行きたい、路面電車に乗りたいたいと言われる方がおられるので、是非にご希望を叶えたいと思います。ご家族様とも一緒に出掛けたいと思います。	現在は、密を避けるためにマンツーマンで近くの公園に行ったり、玄関前や施設横で日光浴を行っている。外出が困難な状況なので、室内で美空ひばりや嵐のDVD鑑賞を行った。今後も利用者にも少しでも楽しんでもらえるような取り組みを考え続けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は出掛けられませんが、アフターコロナには、近所のパン屋さんとか移動販売のパン屋さんなどで、買い物をしていただきたいと思っております。以前は雑貨屋さんにご利用者様と一緒にマニキュアなど買いに出掛けておりました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	こちらからは電話をしたいというニーズはなかなかありませんが、ご家族様からかかってきたら、おつなぎして、居室でゆっくりとお話していただいております。手紙ご希望があればお出ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の動線を考え、危ないものがないように混乱されないように、極力片付けて清潔な空間を作っております。温度や湿度にかとても気をつけています。またリビングには仏像の鉛筆画を飾って、じっくりと鑑賞していただいています。季節の花を飾り、またはご利用者様に生けていただいております。	壁面には利用者と職員が作成した作品が飾られている。利用者は各々が好きな場所でテレビをみたり、会話をしたり、自由な時間を過ごしていた。音楽が絶えず流れており、利用者に癒しを与える空間となっている。職員も仕事ではあるが、我が家のように家族と一緒にくつろいでいるような気持ちになる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のお席は、仲の良い方同士近くになるようにしています。コロナ禍にて、ソーシャルディスタンスを保つために現在は離れて座っていただいておりますが。廊下の長椅子やリビングのソファにて、ご自由に過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を飾ったり、猫の写真や家族の写真、またホームの飼い犬の写真を飾ったりと、皆様自由に楽しんでおられます。アイドルのポスターもあります。居室での時間がくつろいだものとなるように、職員もお手伝いしています。	馴染みの家具やラジオを持ち込んだり、壁には誕生日にもらった色紙を飾ったりしている。家具は安全面に配慮して、必要最小限に留めている。利用者から希望があれば、職員が家族に電話をかけて話をしてもらおうこともある。各々が自由に居室で過ごせて、その人らしい生活ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様が混乱されないように、トイレや浴室、洗面所のわかりやすい表示を心がけています。各ご利用者様の状態に合わせて、出来るだけご理解しやすいように、開設後17年が経過している建物ではありますが、努力と工夫をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105714		
法人名	医療法人おおぞら会		
事業所名	グループホームおおぞら(2階)		
所在地	岡山県岡山市北区大安寺南町一丁目11-28		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 17 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigvosvoCd=3370105714-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山県岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 2 年 10 月 29 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年令和2年は、私たちグループホームおおぞらにとって、そして全世界的にも忘れられない年となりました。新型コロナウイルスの全世界的な流行で、ご利用者様・ご家族様に大きな不便をかけ、そして理不尽でお寂しい思いをさせてしまうこととなりました。平成15年に開設したグループホームですので、最新の設備はありませんが、定着率の良い職員と開設時から暮らす家族犬2匹がいるのが特徴です。新型コロナウイルスは、そんな私たちグループホームのアウトホームな良さに影を落としました。しかし、病院母体の良さを生かして出来る限りの感染対策を施し、職員には多くの我慢をしてもらっていますが、皆で協力し合い、この危機を乗り越えるべく励んでおります。運営推進会議を通して、ようやく地域の皆様方との繋がりが生まれていた時にコロナ禍に見舞われましたが、書面会議にてやり取りを進めていく中で、深い絆が生まれつつあります。大安寺南町という、とても住みよい環境の中で、私たちグループホームおおぞらは、皆様とともに生活しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の日頃の思いが周りにいる人々に浸透しており、スタッフの挨拶や姿勢も爽やかで謙虚な姿が目についた。わからない部分や出来ない部分を長年ずっと運営推進会議に参加しているメンバーから、「こうしては良いのでは?」と、数多くの鋭い指摘や提案を職員一丸となって、どうしたらそれが叶うかと個々に自問自答しながら日々活かしていく姿勢が漂っていた。まるで、雲いっぱい空に少しずつ光が射し、青空が雲の隙間から顔をちょっと覗かし、徐々に大空に広がっている如く、困難なことも地域の方と共に利用者に恩返しをしながら、指摘を受けたことだけに集中して、改善していこうとする管理者のところが、職員に溶け込んでいる所が優れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を共有し実践に繋げるように努めている。理念を共有できるようにホーム内のよく見える場所に掲示しております。	習字が得意な職員が手書きした理念が、各ユニットのリビングに貼ってある。新人職員には、ホーム長が現場で直接説明をし、少しでも早く馴染むようにシンプルな経営理念ではあるが、伝えている。職員一人ひとりが利用者に接する姿から「安全・安心なホーム」の理念が、浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で交流できる機会は減っているが、利用者が地域とのつながりを維持できるように地域の方と交流をさせていただいております。	利用者の家族や友人が近隣に住んでいることもあり、施設の庭の手入れをしてくれる。また、会議を通して地域との付き合いが広がったので、施設主催でリハビリ研修会を開催した時には、30名程の方々が集まった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターを通じて、小学生に向けた「認知症サポーター養成講座」のロバ隊長の作品を利用者と共に作成し、認知症の人を理解していただく活動のお手伝いをさせていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で事業所内での運営推進会議はできていないが、事業所指導課や地域包括の方など連絡を密に取りあい書面会議をとおして他の事業所と交流し助言をいただいております。	老人クラブの会長、前民生委員、家族の代表、事業者指導課、地域包括、他施設の管理者が参加している。議事録は玄関横にファイリングして置かれており、職員全体で情報共有することができる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルスの影響で交流は減っているが、事業所指導課、地域包括、前町内会長、民生委員の方々、ご家族の皆様と連絡を密に取りあい書面での運営推進会議を行い事業所の実情を伝え話し合いを行っております。	事業所指導課からアドバイスをいただくことが多く、何でも話せる関係が出来ている。会議の際に、有益な情報を交換することが多いが、書面やFAXでのやり取りもある。情報を活かした結果、外部に向けての研修会を開催し、地域との交流が増えた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットで話し合い、研修会で拘束の適正化について学ぶ機会を作り、研修内容をレポートで提出してもらい各々が考える機会を作っております。身体拘束等適正化委員会を設置し定期的に話し合いを行っております。	玄関に資料を掲示しており、常に見直せるようにしている。身体拘束はしない。防犯の関係上、必要最低限の施錠はしているが、利用者・ご家族の同意を得ている。利用者への言葉掛けには十分配慮しており、特にスピーチロックには気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、研修会で虐待について学ぶ機会を作り個人記録などでご利用者様の変化に注意しております。虐待防止委員会を設置し定期的に話し合いを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的にホーム内の研修会で学ぶ機会を作っております。外部での講座が受けやすいように費用負担については、法人に相談させてもらっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には分かりやすいように説明するように努め、理解し納得していただければサインをいただくようにしております。分からない点が聞きやすいように、良好な関係作りに努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、ご利用者様やご家族様に声かけしております。ケアプラン作成時に要望をお聞きしております。	コロナを避けるため、リビングのガラス越しから面会を行っている。家族からのメールやラインでのやりとりも増えた。お便りを郵送する際には、お手紙や写真を添えている。利用者や家族の気持ちを一番に考え、傾聴の精神を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を言いやすいように良好な関係作りに努め、ミーティング等で意見を聞くようにしております。	ホーム長には、何でも言える関係が築かれており、休憩時間や食事の雑談時に色々な意見が出やすい。また、ベテラン職員から貴重な意見をいただけることもある。出た意見は情報交換ノートに記録し、職員間で共有できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の休みの希望については、他の職員とかぶらないように、極力叶うようにしています。資格取得については、有資格者が可能な限り相談にのり、取得に向けて皆で頑張っております。法人全体で資格取得に向けて動いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会を行い、テーマを決めて発表してもらう機会を作っています。研修内容をレポートで提出してもらい各々が考える機会を作っています。外部での講座が受けやすいように費用負担については法人に相談しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の方と連絡を取り合い情報交換をしています。法人外の研修などに参加しやすいように、法人全体で取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前にはご本人様とお会いして話をお聞きし、表情やしぐさ等にも注意してしっかりとご利用者の理解に努めています。ご利用者様、ご家族様との良好な関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前にお会いして困っていること、要望などをしっかりと傾聴しております。そして、ご利用者様との関係などもみて良好な関係作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	プラン作成前には、ご本人様、ご家族様とお会いして話し合いを行い、様々なサービスから必要な提案をしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内ではご利用者様に洗濯を畳んでいただいたり、やりたいことや出来ることを見極めて、声かけして行って頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、手紙をお出してご利用者様の近況、要望、などをお伝えしています。制限させていただいてますが、ご利用者様のご家族、親族が会いに来て、出来る形で面会できるように支援しています。また書面での運営推進会議に参加していただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で面会は制限させていただいておりますが、ご利用者様の友人から連絡がきた時は、居室でゆつくりと電話でお話していただいております。	コロナ前はバラ園や近所の公園へ桜を見に行った。現在は、母体の病院に連れて行くことが多いので新たな馴染みの場所になっている。近所の美容院や理髪店には継続して連れていくことで馴染みの場所が途絶えないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもりがちな方にはレクリエーションを行う時等に声かけを行って、出来るだけご参加いただいております。またご利用者間の良好な関係作りのため、職員が間に入り話しやすい環境作りのお手伝いしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も良好な関係作りに努めています。行事等のお知らせなどをしたり、また有難いことに退所された方の御家族様から、布巾をたくさん作っていただいたりしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時ご本人様のご意向を確認致しますが、困難な場合はご家族様などから生活歴などを確認して、出来るだけご本人様の思いが反映できるように努めています。	日常生活の中で思いを聞くことがほとんどだが、困難な場合は、言動や表情から把握したり、家族から聞き取ったりしている。職員は、利用者のためになるように「したいことをやろう!!」の精神を大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活習慣を大切に、今まで住まわれていた場所との関係性を失わないように、馴染みの暮らしを実現できるように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日24時間の個人記録を詳細に記載し、それによって一人ひとりに合わせた支援をしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成前はご本人様、ご家族様からご意見をお聞きしております。そして、サービス提供者会議を開催し、様々な意見が反映できるようにしています。	介護計画は、入居時、1か月、3か月、何かあればその都度見直している。日常の業務がモニタリングとなっている。申し送りノートやケアプランファイルを活用し、職員間で共有している。また、医師からも往診時に療養上の指示・アドバイスをもらっているため、モニタリングに役立っている。	介護が単独の計画となっているようなので、医師を交えてその人全体からの意見を閲覧し、指示を仰いでいただければいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を活用したり、またしっかりとケアプランのモニタリングを行っています。ご利用者様に変化がある時は申し送りノートなどを使用し、皆で状況を把握して支援に活かせるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部の講座を受講することで最新の情報を仕入れております。また他の事業所と運営推進会議などを利用して情報を共有し、またその事業所様からも色々な情報をいただいております。地域の社会資源の活用は、難しいですが、いつも視野に入れております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書面での運営推進会議に地域の方にもご参加していただき、とても素晴らしい御意見を賜っています。困難だとは思いますが、どのような地域資源があるのかを知り、活用できるように頑張りたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二度、同仁病院からの往診がありドクターと職員で情報共有に努めています。それ以外の病院受診の場合はもしもご希望があればご家族様が付きますが、原則職員が受診に付き添い、御家族様に状況をしっかりと説明させていただいております。	母体の病院がかかりつけ医なので、24時間365日体制で適切な医療を受けることができる。看護師と主治医の連携が取れているので、情報伝達がスムーズに行える。ドクターは一人ひとりにあった医療についての話をしてくれるので、介護に役立つようにしている。	医療に関しては、ドクターのご指示なので忠実に介護に活かすためにも、深く関係性を持ち、時には話し合う場を設けてはいたがでしょうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が日常気付いた事を職場の看護職にその都度伝え相談しています。訪問看護師にも同様に伝え個々の利用者様が適切な受診、看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院から退院まで病医院関係者との情報交換や相談に努めています。病院関係者と良好な関係が構築出来るように努力しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族との話し合いや説明を行い、同時にドクターと相談しながら支援に取り組んでおります。	入居時にできることとできないことを明確に説明している。看取りについては、ドクターと連携し、今後どうするかを本人、家族に相談して決めてもらっている。看取りを経験している職員が多いため、安心して任せることができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「事故の発生等緊急時の対応に関する研修」を定期的に行っております。マニュアル表を提示して、いつでも確認できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災防災訓練を定期的に行い、職員皆でよりよい方法を考えます。また、「非常災害時の対応に関する研修」を行っております。運営推進会議を利用して、地域との協力体制を築けるよう努めております。	4月に夜間想定で水害訓練、10月に昼間想定で火災訓練を実施した。リビングの壁面に防災マップや避難経路が貼っており、防災に対する意識は高い。備蓄は施設2階に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ご利用者のプライバシーの保護の取り組みに関する研修」を定期的に行い、実践するように努めています。	敬称は基本名字で呼んでいるが、その人の馴染みにあった呼び方をする場合もある。排泄失敗時は、相手の気持ちに配慮して「気にしないでいいですよ」と耳元で優しい言葉掛けをしている。夜間の部屋に入る際は、必ずノックするように心がけ、利用者を尊重する気持ちを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からご利用者様との会話をすることで、ご本人の思いや希望を知るように努めています。また出来るだけご利用者様が自己決定できるように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の性格やペース、ご希望に合わせて無理強いしないよう注意しながら支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服など選んでもらい好みのものを着ていただいています。整髪される方は、鏡の前で櫛でご自身で梳いていただいております。必要に応じて介助しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく食べて頂くため、一人ひとりの好みを訪ね食べやすい状態にして提供しています。またケーキ作りのトッピングなどを手伝ってもらっています。テーブル拭きをして食事前の準備を手伝ってもらっております。	施設の意向で、家庭的で温かい食事を提供することを大切にしているので、3食全てが手作り。庭で栽培している旬の野菜を使用することもあり、残食はほとんどなく、利用者に喜んでいただいている。食事の後片付けを手伝ってくれる利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分チェックをして個々の状態に応じた量を飲んでもらうように支援しています。栄養バランスを考えてメニューを作り、キッチンと食事量もチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後は口腔ケアをしてもらっています。見守りや介助の必要な方には本人の力に応じたケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えが出来ない方は時間をみて声かけしトイレに行ってもらい見守り助します。トイレの訴えがある方は見守りし助しています。出来るだけおしめを外せるよう、また失禁される前にトイレに誘導出来るように努めています。	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを理解していて、些細な兆候も見逃さないように支援している。耳が遠い利用者には筆談したり、「お小用に行きませんか」と言葉掛けしたりするとトイレに行く利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録票を職員みんなでチェックし便秘への対処や便秘の解消の工夫を相談し個々に応じた予防に努めています。食事は食物繊維の多いものなどを提供することで便秘の予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおぞらでは午前中に入浴してもらっています。毎朝バイタルチェックなどで体調を見て入浴の声かけをし、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて楽しく入浴していただいております。	入浴は週2回で、お風呂が好きな利用者が多い。浴槽に入らない利用者はシャワーのみの場合もある。入浴中は必ず介助を行っている。お湯は自動式で循環湯となっている。利用者が喜んでくれるので、地方の温泉地の入浴剤を使用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員間での情報を元に、不眠や不安を感じておられる様子を理解して、昼寝をしてもらったり、またお話を傾聴することで安心して気持ちよく寝れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書に職員がしっかり目を通し理解出来るように努めています。お薬が変わった場合、職員全員で共有し、症状の変化があればしっかりと記録して、ドクターへ報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活力を理解し、やりがいのある仕事や楽しみ事を提供するように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナウイルスの影響で、外出が出来ておりません。アフターコロナには、皆様としっかりと外出したいと思っております。	現在は、密を避けるためにマンツーマンで近くの公園に行ったり、玄関前や施設横で日光浴を行っている。外出が困難な状況なので、室内で美空ひばりや嵐のDVD鑑賞を行った。今後も利用者にも楽しんでもらえるような取り組みを考え続けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご利用者はホームではお金を持たれていません。家族の方と外出時に食事をされたり買い物などされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から電話を掛けてほしいとのご依頼があれば電話をお掛けし、お話をしてもらっています。ご家族様からの贈り物が届いたときは御礼状を書いてもらったり電話でお話してもらったりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れるため飾り付けをし行事の写真など掲示して楽しんでもらっています。ご利用者が動きやすいようにゆったりとした空間を保ち室温や清掃に気配りしています。	壁面には利用者と職員が作成した作品が飾られている。利用者は各々が好きな場所でテレビをみたり、会話をしたり、自由な時間を過ごしていた。音楽が絶えず流れており、利用者に癒しを与える空間となっている。職員も仕事ではあるが、我が家のように家族と一緒にくつろいでいるような気持ちになる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席でもリビング席でも気のあった利用者同士と一緒に楽しくお話されています。時々、椅子の配置を変えるなどして、皆さんが居心地良く過ごせるように工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の時、使い慣れたものや好みの物があれば持ってきて下さいとお願いしています。ご家族様の写真など飾られたり、ご家族様が毎年カレンダーをもってきたりして下さっています。	馴染みの家具やラジオを持ち込んだり、壁には誕生日にももらった色紙を飾ったりしている。家具は安全面に配慮して、必要最小限に留めている。利用者から希望があれば、職員が家族に電話をかけて話をしてもらうこともある。各々が自由に居室で過ごせて、その人らしい生活ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者一人ひとりに安全で出来るだけ自立した生活がおくれるようベットの配置やベット柵の位置を工夫し、ポータブルトイレ、椅子の配置など工夫しています。		